

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作
3D・CGアニメーション企画・制作



半田中央印刷株式会社

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500
E-mail: main@handa-cp.co.jp http://www.handa-cp.co.jp

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861 企画・制作：株式会社 新聞ビル

大河ドラマ『徳川家康』の役作りのエピソードもよく知られている話だ。主演が決まったものの、どう演じていいのかわからなくなり、「大河ドラマ史上初の主役失踪になるか」と思い詰めた。

冬はかなり厳しい寒さに見舞われるが、そんなときでも水浴びをして、座禅で呼吸を整え、お経を唱え、仏を彫る。頑張る人なのだ。「不器用だから頑張らないと出来ない。その代わり、一つのことを徹底してやると、人には真似出来ないことが生まれる」と、どんなことにも手を抜かない。

俳優の滝田栄さんは、ご本人の言葉を借りれば「過激なくらい頑張る」人だ。1メートル85センチと大柄な滝田さんだが、その生き方も、スケールが大きく、エネルギーがすごい。役作りはもとより、座禅、仏像彫刻、発展途上国への援助活動…何事にもひたむきに取り組むのが滝田さんの真骨頂だ。

役作りに頑張る

長野県原村、八ヶ岳の麓に暮らしたの拠点を移して27年。小学生の頃から、趣味である登山でよく来ていたところだ。都会より居心地がいい。「気持ちを自然の清々しさに合わせる」と、一日快適に過ごせる。

Nobuo Murakami



元気のでてくる“ことばたち”

116

村上信夫 (アナウンサー)

暗中模索するうち、家康が人質生活を送った静岡の臨濟寺に頼み込んで修行をすることにしました。修行しても何も見えてこない。焦る心を見抜いた寺の老師が、釈迦の涅槃図を見せてくれた。す

馬鹿だなあ

俳優 滝田 栄さん

すべての生き物が釈迦の死を嘆いている絵だ。老師は、「若き家康を導いた雪齋禪師は、この涅槃図を見せながら、仏陀の心で、この世を浄土にと、説いたのではないかと教えてくれた。語らい

の中で、滝田さんは「徳川家康は、戦国大名たちの私利私欲の戦を終わらせるためにこの世に現れたのだ」と悟った。家康は、たぬき親父ではなかった。

14年間、およそ一五〇〇回の舞台を踏んだ『レ・ミゼラブル』に対しても、「一回一回、死力を尽くす格闘家の心境で臨んでいた。滝田さん演じる主人公のジャンバルジャンは、貧困のあまりパンを盗んで刑に服するが、「生まれ変わり、正直な人になれ」と司教に諭され、心を入れ替える。素晴らしい人間ドラマを演じてきた自分が役を離れることになったとき、素の自分はいったいどんな人間なのか、もう一度問い直したくなった。

『レ・ミゼラブル』千秋楽の翌日に、滝田さんは人知れず、インドに向けて旅立つ。2年にわたって、瞑想と座禅でひたすら自分と向き合う日々を送る。インドでの2年間の修行で何がわかったのか聞いてみた。しばらく間があつてのち、大きな声で「大発見をしたんです。俺は馬鹿だなあ」と言われた。自分と向き合うのは面白かったと嬉しそうに語る。見栄が消えて、



俳画/イネ・セイミ

村上信夫プロフィール

NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
4月からは、新番組『ラジオビタミン』担当。
(ラジオ第一-8:30~11:50)
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち!』(近代文芸社)
『おやじの腕まくり』(JULA出版局)『いのちの対話(共著)』(集英社)『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

に挑んだのだ。

滝田さんは、千葉県印西町(いんざいまち)で、4人兄弟の末っ子として生まれた。両親が仏壇に、花と水を供え、線香をたて、合掌する姿を見て育った。

小学校、中学校、高校と、それぞれに山登りの好きな先生がいて、すっかり登山好きになった。本気で、アルプスの山岳ガイドに憧れた。スイスの公用語の一つフランス語を学ぼうと、中央大学仏文科へ進む。

しかし、学生運動で大学はロックアウトの連続。空き時間に見た映画『アラビアのロレンス』が人生を変えた。映画の感想を熱く語っていると、友人が俳優になることを勧めた。「君のタイプは文学座」と友人がさっさと応募の作文を書いてくれた。それが俳優への扉が開かれたきっかけだった。

滝田さんの兄は、千葉県の成田高校陸上部の監督として、マラソンの増田明美さん、ハンマー投げの室伏広治さんを育てた。兄は、まだ駆け出しの頃、舞台のチケットを売らさばいて応援してくれた。役作りのトレーニングメニューを組んでくれたこともある。その兄がガンに罹り、55歳で突然逝ってしまった。

兄への供養には、等身大の不動明王を彫った。胸板が厚くマッチョな不動明王。後ろから伸びる長く太い髪。「馬鹿者」と一喝されそうな怖い顔をしている。

ボランティアも頑張る

一九九一年から、発展途上国への援助ボランティアも続けている。イギリスのNGO『フォスタープラン』の評議員をしている。子どもたちが、

安全で確実に成長出来る地域を作るための資金援助をするボランティアだ。その地域の文化を壊さないように意識して、ただ単に資金提供するのはなく、生きていくのに必要な食べ物の作り方を教える。

援助国のフィリピンや、ベトナムの子と文通もしている。地域がどのように様変わりしているのか、どんな援助を望んでいるのか尋ねたり、日本や世界の情勢を伝えたりしている。一昨年、ベトナムを訪ねた。中国国境に近いバグザンというところだ。ドイモイから取り残された少数民族が住む。そこでは、キノコ作りが成功して、学校や病院などの施設も作ることが出来た。10年でも何が変わったか土地の人に聞いた。「子どもが国の未来であることがわかった」と答えが返ってきた。「自分たちのエゴを通すために、子どもをないがしろにすることの多い先進国の大人たちに聞かせたい。」

言葉がほとぼしる。言葉に魂が宿っている。自分を語るときも頑張る。真剣に生きる滝田さんと接しているうちに、とても清々しい気持ちになった。



好評発売中

イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。



俳画教室開講中

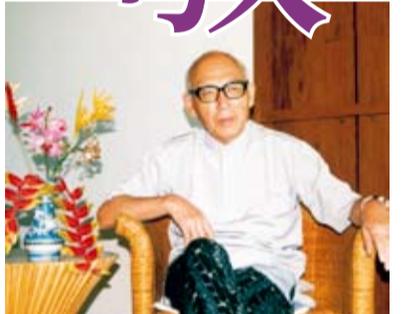
ところ 常滑屋
とき 月一回 第一金曜日 午後一時
会費 一回 二、五〇〇円(四ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六三(三三)〇五八三

堤江実のボエム
コンサート
CDでお届けします。
言葉に癒されるCD 堤江実のボエムガーデン
やさしい風がふいています。
木々の梢は光っています。
あなたの心がやすらぎで満たされますように。
あなたの心に喜びがあふれますように。
詩と朗読 堤江実
フルート イネ・セイミ
ピアノ はちまん正人
構成 佐藤よりこ
Disc1. 光のように
Disc2. 花のように
2003年10月22日発売
CD 2枚組3,150円(税込)

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(6)



《ガルダ》

インドネシア航空で行く

バリ・ジャワ島 観光の旅(2)

『早起きは、三文の得』

はじめてのバリ島の、はじめての宿は「バリ・ヒルトンインターナショナル」。空港から三〇分ほどの、バリ島最南端・バドゥン半島の東側・ヌサドゥア地区の広い珊瑚礁に囲まれた、長いビーチ沿いに建てられた「五ツ星のリゾートホテル群」の一つである。

その年(一九九二年)の五月にオープンしたばかりというから、私たちが逗留する三ヶ月間、とどころで砂岩のレリーフに装飾彫刻を施している現地職人の姿が、間近にも散見される。見事な彫りである。これが出来たてホヤホヤのホテルというのか…。ホテルの「オープン」と、完成との違いも実感できた「バリ・ヒルトン」の逗留第一歩であった。

こんなホテルとの出会いもあり、しばらくはバリ島への入国・出国時のリゾートホテルとしての縁を結ぶこととし、ホテルの新たな装飾の誕生とその完成を樂しむことにもなった。

「バリの朝は早い」と、前にも書いたが、それは夜明けの時間がとりわけ早いという訳ではなく、そこに住む人間の働き出す時間が早いということである。日本でも同じである。昔から「人間は、加

齢と共に朝が早くなり、田舎人間ほど朝が早い」と言われてきた。

この四月より、前期や中期の予告もなく、突如「後期高齢者」と呼ばれるようになった現在、小学校時代の夏休み中、田舎で農業を小作人と共に、手広く切り盛りしていた母方の祖母の元で、たつぷり生活をしてきた体験と重ね合わせ、早朝人間である私の由緒に大きく納得してきた。

「バリの朝も日本の朝も、還暦を過ぎた私の朝も早い。農民や漁民である多くのバリ人も、日本人も朝早くから田畑や海辺の見回りと、自然の恵みを頂戴する収穫を楽しんできたものだ。

私のバリ・ヒルトンの朝も早い。ホテルの略図と庭園灯のほのかな灯りを頼りに、まだ足元も暗いビーチに出てみた。誰一人もいないだろうとの思いで…。

プライベートビーチに並べられた木製のベッド式の長椅子も、見渡す限り全て空席。日除けのビーチパラソルも全て折りたたまれたままである。果せるかな人のいる気配は全くない。

しばらく目を休め、なれるのを待つ…。波音一つない静寂。目を凝らすと東向きのビーチの南北・左右の広い砂浜に、二・三人の男性が、籠を背負い、箒を片手に掃除に余念がない。薄明るくなり、ふと足元の砂浜を見ると、

水辺に下った砂浜に、水着姿の若い金髪の女性が一人腰を下ろし、ゆったりとした呼吸運動と屈伸運動に余念がない。これが、古来インド哲学という瞑想的修業法であり、自然の摂理に従った健康法のヨガというものか…。綺麗な動きと姿である。

浜辺の朝が一段と白らみかけたかと気付いた瞬間、遙か彼方、真正面の水平線と空一帯が赤く染まり、大きな太陽が頭を出し、見る見る半身を現わしはじめる。瞬く間に、水平線から黄色味がかった赤い一本の光の帯が、私の足元のビーチに走り寄り、太陽と浜辺が赤い光の帯で結ばれる。よく見ると、その赤い光の帯が、海水の波動にゆらめき、細かな柄を織りなしているようにも見える。

「ヒルトンの朝」は、私のような老人や農民・漁民だけでなく、北欧からきたという若い女性までも「早起き」に誘い、心身を柔軟に健康にさせてくれている。

私も砂浜に坐り、手足を伸ばして、馴れない屈伸運動をまねてみた。大きく呼吸すると、新鮮な朝一番の空気を吸い込み、体の内側からリフレッシュされる実感を満喫した。

いつしか、あの美しくも神秘的にも見えた「日の出のページェント」も終わり、いつもながらの「熱い南国の太陽」になっっている。ヨガの女性の姿も、もう見えない。ビーチの長椅子に腰をかけて、

8ミリカメラの映像を確認しながら、ふと『早起きは三文の得』とは、「こういうことか」というのか」と、永年の言葉の意味、とりわけその真意を理解しかねていたもどかしさや愚かさが、一挙に解け去っていく思いだった。充実感一杯の朝だった。

祖母亡き後、母親からも、中学高校時代によくこの言葉を聞かされた、「早起き」を促されたものだった。

当時、私の田舎では、広く村人の日常生活の中で子どもに対してだけでなく、お互いによく交わされてきた言葉である。

「早起きは、三文の得」という言葉を、私が初めて聞いたのは、六、七歳の頃であると思う。毎夏休み農家である母方の祖母の家に預けられていた頃である。

祖母は、毎日朝露を踏んで、田畑の見まわりや収穫の道すがら、口癖のように「早起きは、三文の得」と、年端もゆかぬ私に、よく語りかけてくれたものだった。

時折り、そう言いながら、畑の朝露に冷えた、もぎたてのトマトや、瓜の丸嚙りを推めてくれたりもした。「おいしいよ、食べてみな」と。そう言われても、あのトマト独特のなんとも言えない匂いと味、それに瓜の種が気になるか、子ども時代の私には「迷惑の極み」であった。

いつの間にか、この幼児体験と「早起きは、三文の得」の言葉が奇妙に結びつき、この言葉の真意はもとより、そのイメージも充分つかめないまま、時に過ぎて来た

た。祖母亡き後、母親からも、中学高校時代によくこの言葉を聞かされた、「早起き」を促されたものだった。

私が、この言葉を意識し、言葉の真意を理解しようと思いはじめたのは、日本が経済の高度成長をなしとげ、米国に次ぐ経済大国に急成長した70年代の頃からである。

「早起きは、三文の得」という言葉は①金品の「獲得」のように「手に入れること」そして「得をした」利益を得えた」という意味だけではなく、②「習得」、「体得」、「得心」というように、「身につけること」そして人間の認識の極致である、「さどること」の「徳」に通ずる意味をも持った言葉である。

先人は、私たちにこの言葉を通して、金品や文字・数字だけでは計れない「三文の得」を、早起きだけでなく、身近なさまざまな日常生活体験の中で「体得」・「習得」し、積み重ね、「人間味のある大きな人間」になるように論じているように私には思われます。皆さんはいかがでしょうか。



日本列島改造の中で、子どもの生活環境は急変し、生活リズムを失い、自然体験・生活体験も希薄化し始めた頃である。

私がバリ島を訪れ、「バリ島の早起き」で、「三文どころか六文の得」をした92年、関東・東北圏の小・中学生の「自然の生活体験調

お父さんだいすきっ!!

常滑市立
常滑幼稚園

～父の日によせて～

先生のことば

6月の父の日にちなんで、大好きなお父さんの顔を描きました。筆を使って人物を描くのは初めてですが、「私のお父さんて、こんな顔してるよ」「ぼくのお父さんは首の所までおひげがあるんだ」など、お父さんを思い出しながら、楽しんで描きました。

どの子の絵もそれぞれのお父さんの表情が出ていて、見ていてとても楽しいです。

この絵のように一人一人がそれぞれ自分の持っている力を出しお互いのよさを認め合っている仲間になっていってほしいと思っています。



ひな しおり



にしだ ゆか



やまもと まさと



たけうち かりん



かわい けいと



ふかい ゆうき



くわはた みき



やまだ けいご



かわもと あおね



たにかわ みゆ



なかた ありさ



こばやし さら



にいみ しょうた



やすだ いおり



のだ こうたろう



ふなき そら



みずかみ さとえ



もりもと れみな



すがわら あかね



いけだ みさき



たかおか かつとし



なかむら こうすけ



やまもと こうた



こんどう りゅうた



きよた みゆう



みずかみ たいち

